

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 9 日現在

機関番号：14401

研究種目：基盤研究(A)

研究期間：2011～2013

課題番号：23242034

研究課題名(和文)最新の研究成果にもとづく大学教養課程用世界史教科書の作成

研究課題名(英文)Publishing a World History Textbook for Liberal Arts Based on the Latest Research

## 研究代表者

桃木 至朗(MOMOKI, SHIRO)

大阪大学・文学研究科・教授

研究者番号：40182183

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 34,900,000円、(間接経費) 10,470,000円

研究成果の概要(和文)：本計画は、全国の高校・大学教員と協力し、歴史学各分野の最新の研究成果について、(1)教員用(高大両方)の解説・教材・用語集を作成する。(2)各高校や他大学の教養教育の状況も踏まえて、最終的には大学教養課程向けの世界史教科書を作成する、などを目標とした。成果として各種解説などを収めた報告書を計6冊刊行し、計画終了直後には教科書『市民のための世界史』も刊行したほか、全国歴史教育研究協議会や神奈川・北海道など各地の高校教員組織、福岡大・東南アジア学会などの大学・学会、堺市など自治体、さらに韓国・中国やアメリカの専門家との交流といったさまざまな相手との歴史教育をめぐる共同研究や討議を推進した。

研究成果の概要(英文)：In a nation-wide (and partly international) cooperation with high-school and university teachers, we aimed at compiling history teachers' (of both high schools and universities) handbooks and teaching materials, and a textbook of world history for liberal arts level. Based on the latest research achievements and situations of high-school and liberal arts educations, we published six data papers including various commentaries and reports, and finally published a textbook of world history entitled "A World History for Citizens". Along with these publications, we undertook joint research and discussions regarding history education with various counterparts such as national and local (Kanagawa, Hokkaido and so forth) organizations of high school teachers, universities and research societies (Fukuoka University, Japan Society for Southeast Asian Studies), local government (Sakai city), and foreign scholars from South Korea, China and the United States for instance.

研究分野：史学

科研費の分科・細目：史学一般

キーワード：世界史 教養教育 教科書 高大連携 歴史コミュニケーション

### 1. 研究開始当初の背景

カリキュラムや入試の矛盾のため、日本の若者の歴史の素養は、近年大きく後退した。専門研究の多様化の一方でタコツボ化は、この教育の危機に拍車をかけている。中等教育だけでなく、教養教育や教員養成など大学側も含めた取り組みなしには、この事態を克服することは困難である。これに対し大阪大学では、長期的な高大連携のもとで、最新の研究成果をコンパクトにバランスよく教育現場(高校・大学その他)に提供するための解説、教材作りなどの活動を展開してきた。

### 2. 研究の目的

本研究は、全国の高校・大学教員の協力をえながら、一方で大阪大学史学系が強みをもつグローバルヒストリーなどの分野、他方で文理融合型の環境史など最近注目されている新分野の要点をまとめ、解説・用語事項集などを作成するとともに、高校時代に系統的な歴史の学習をおこなえなかった学生(および市民)に向けて、教養課程レベルの世界史教科書を編集・出版することを目的とした。

### 3. 研究の方法

高大連携による大阪大学歴史研究会の月例会を中心に、最初の2年間はほぼ学期ごとにテーマを決めて解説・用語事項リストの提示や授業実践の報告をおこない、報告書やHP上で逐次公表した。3年目はこれらをもとに大学教養課程用教科書の編集に向けた章立てや内容の討論を進めた。そのほか、各地の高校教員組織や大学、国内外の学会に向けての成果発信や研究交流を推進し、そこでえた反応や情報も、報告書・教科書等に盛り込むことにつとめた。

### 4. 研究成果

(1)3年間で月例会・特別例会合わせて30回の研究会を開催し、グローバルヒストリー、中央ユーラシア史、世界史と日本史の統合、環境史と科学技術史、ジェンダー史と家族史、新しい文化史などテーマ別の研究発表・解説と実践報告、教養課程用教科書の書き方、大学での歴史教育のありかたについての提案・討議などをおこなった。また全国主要大学の教養課程における世界史教育の動向を、シラバス調査とアンケートにより調査した。(2)以上の成果を、計6冊の報告書、HP上の資料などのかたちで公表したほか、アメリカ世界史学会(WHA)北京大会、アジア世界史学会(AAWH)ソウル大会などの国際学会を含む多くの学会、全国歴史教育研究協議会(全歴研)を含む高校教員の研究組織、各地域や大学の高大連携活動、さらに日本学術会議史学委員会の高校歴史教育分科会といったさまざまな場で紹介・討議し、最後にそれらからのフィードバックも盛り込みながら、教養課程用教科書『市民のための世界史』を計画終了直後に完成させることができた。

(3)以上の活動には分担者・連携研究者や高校教員の研究協力者以外に、ポスドク・大学院生を特任研究員などのかたちで参画させ、研究会には一般院生の参加も奨励した。その結果、教員志望の院生が新しい教育内容を理解できただけでなく、研究者志望の院生・ポスドクが歴史学界全体の動きをとらえる広い視野と、その中に自分の研究を位置づけ専門外に向けて発信する能力を身につけるためのノウハウ開発という点で、大きな成果があがった。その一部は、院生向け授業・研究指導や、当該若手研究者の執筆・教育活動を通じて公開されつつある。

### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計30件)

市大樹、大化改新と改革の実像、『岩波講座 日本歴史』岩波書店、2巻(古代2)、査読無、2014、pp. 251-286

KURIHARA Asako, Pity and Charis in the Classical Athenian Court, JASCA (Japan Studies in Classical Antiquity), 査読有, Vol. 2, 2014, pp. 67-88

中村薫、日本学術会議の高校地理歴史科改革案について(2)「歴史基礎」の問題点および東アジアを媒介とした世界史像、同志社大学教職課程年報、査読有、3巻、2014、pp. 3-14

桃木至朗、戦争のための歴史、平和のための歴史 東アジア諸国民の相互理解を阻むものは何か?、木戸衛一編『平和研究入門』大阪大学出版会、査読無、2014、pp. 220-232

秋田茂、綿業が紡ぐ世界史 日本郵船のボンベイ航路、秋田茂・桃木至朗編『グローバルヒストリーと帝国』大阪大学出版会、査読無、2013、pp. 214-238

ARAKAWA Masaharu, Valerie Hansen, The Transportation of Tax Textiles to the North-West as part of the Tang-Dynasty Military Shipment System, *Journal of the Royal Asiatic Society* (third series), 査読有, Vol. 23, No. 2, 2013, pp. 245-261

<http://dx.doi.org/10.1017/S1356186313000187>

飯塚一幸、日清戦争論の現在 帝国化の起点をめぐって、秋田茂・桃木至朗編『グローバルヒストリーと帝国』大阪大学出版会、査読無、2013、pp. 107-134

市大樹、都の中の文字文化、平川南編『古代日本と古代朝鮮の文字文化』大修館書店、査読無、2013、pp. 30-51

堤一昭、モンゴル帝国と中国 コミュニケーションと地域概念、秋田茂・桃木至朗編『グローバルヒストリーと帝国』大阪大学出版会、査読無、2013、pp. 44

- 中村薫、日本学会議の高校地理歴史科改革案について(1) 「歴史基礎」の問題点および東アジアを媒介とした世界史像、同志社大学教職課程年報、査読無、2巻、2013、pp. 18-27
- 中村武司、18世紀のイギリス帝国と旧き腐敗、秋田茂・桃木至朗編『グローバルヒストリーと帝国』、大阪大学出版会、査読無、1巻、2013、pp. 135-157
- 秋田茂、金晶(訳)、亜州国際経済秩序与大英帝国及英帝集团(1930-1950年代)、田中仁・江沛・許育銘(主編)『現代中国変動と東亜新格局』社会科学文献出版社、査読無、1巻、2012、pp. 3-12
- ARAKAWA Masaharu, Chinese Research on Sources Excavated from Turfan Archeological Sites, *Asian Research Trends*, 査読無, Vol. 7, 2012, pp. 19-40
- IGAWA Kenji, The Encounter between Europe and Japan, *ACTA ASIATICA*, 査読無, Vol. 103, 2012, pp. 77-94
- 市大樹、日本古代木簡の多機能性、東アジアの簡牘と社会 - 東アジア簡牘学の検討 - シンポジウム報告集、査読無、1巻、2012、pp. 85-99
- 栗原麻子、桑山由文、(書評)桜井万里子・師尾晶子編『古代地中海世界のダイナミズム 空間・ネットワーク・文化の交錯』、史学雑誌、査読有、121編6号、2012、113-121
- 栗原麻子、古典期アテナイにおける互酬的秩序 課題と展望、パブリック・ヒストリー、査読有、9号、2012、pp. 5-14
- 堤一昭、石濱文庫所蔵の桑原隲藏書簡 - マルコ・ポーロの「キンサイ=行在」説をめぐって、待兼山論叢・文化動態論篇、査読無、46巻、2012、pp. 1-20
- 中村武司・伊藤一馬・後藤敦史・中尾恭三・秋田茂、「新しい世界史の運動」と歴史学研究、西洋史学、査読有、246号、2012、pp. 55-67
- 桃木至朗、アジアから全体史を見る / 語る、歴史評論、査読無、748号、2012、pp. 72-79
- ②① AKITA Shigeru, The British Empire as 'Imperial Structural Power' within an Asian International Order, Toyin Falola and Emily Brownell (eds.), *Africa, Empire and Globalization Essays in Honor of A.G. Hopkins*, Calorina Academic Press, 査読無, Vol. 1, 2011, 417-431
- ②② AKITA Shigeru, The British Empire and the International Order of Asia in the 1930s and 1950s, *The Korean Journal of British Studies*, 査読無, Vol. 26, 2011, 69-91
- ②③ 飯島涉、「中国史」が亡びるとき、思想、査読無、1048号、2011、pp. 99-119
- ②④ 伊川健二、合山林太郎、小野潤子、康盛国、文学研究科共同研究「中近世日朝交流史の学際的研究」活動報告、待兼山論叢・文化動態論篇、査読無、45号、2011、pp. 1-13
- ②⑤ 市大樹、飛鳥浄御原令について、歴史と地理、査読無、645号、2011、pp. 21-26
- ②⑥ 堤一昭、「中国」の構造をめぐる現代日本の議論 帝国から国民国家へ、現代中国与東亜新格局 - 百年中国与周辺地域、査読無、5巻、2011、pp. 213-222
- ②⑦ 堤一昭、モンゴル帝国の基本構造 - チンギス・カンからクビライ・カンへ、大阪大学歴史教育研究会成果報告書シリーズ、査読無、5号、2011、pp. 65-73
- ②⑧ 中村薫、日本学会議における地理歴史科の科目改革案について 高校教員へのアンケートを中心に、学術の動向、査読無、9月号、2011、pp. 36-39
- ②⑨ NAKAMURA Takeshi, The Commemoration of Nelson and Trafalgar in St Paul's Cathedral, *The East Asian Journal of British History*, 査読有, Vol. 2, 2011, pp. 1-22
- ③⑩ 中村武司、母をたずねて三千里 大西洋を渡る移民たち、藤川隆男編『アニメで読む世界史』山川出版社、査読有、1巻、2011、pp. 137-158
- 〔学会発表〕(計52件)
- KURIHARA Asako, Vengeance, Reciprocity and Community in Lycurgan Eisangeliai, Lycurgus in Transition: Old and New (Workshop for JSPS Grant-in-Aid for Scientific Research (C)24520831, 2014年3月28日~2014年3月30日, Kyoto: Kansai Seminar House
- 市大樹、木簡からみた藤原京、飛鳥・藤原の宮都とその関連資産群を知ろう、学ぼう講演会(招待講演)、2014年3月22日、橿原市・奈良県立橿原考古学研究所
- 市大樹、日本古代駅伝制度の特質 日唐比較と山陽道、第15回播磨考古学研究会(招待講演)、2014年2月16日、姫路市教育会館
- 荒川正晴、唐朝の対外交流と通行証、『日本古代の外交文書』出版記念シンポジウム「古代東アジア・東ユーラシアの対外交通と文書」(招待講演)、2014年1月26日、國學院大学(東京都)
- IJIMA Wataru, A hidden anti-schistomiasis japonica network in the twentieth century Japan, China and Philippines, History of Medicine of Southeast Asia Conference, 2014年1月11日, Ateneo de Manila University
- 桃木至朗、世界史教育と地域史教育、同志社大学グローバル地域文化学会(招待講演)、2013年12月11日、京都市・同志社大学至高館

伊川健二、慶長遣欧使節とスペイン、平成 25 年度図書館カレッジ スペインの歴史と旅(招待講演) 2013 年 11 月 23 日、神奈川県立図書館新館

中村薫、日本学会議の地理歴史科改革案について、みちの会第 382 回例会(招待講演) 2013 年 9 月 28 日、大阪市・たかつガーデン

市大樹、木簡から日本古代国家の形成過程を考える、第 26 回浜田青陵賞授賞式・記念シンポジウム(招待講演) 2013 年 9 月 21 日、岸和田市文化会館ホール

UCHINO Hanna, Forgotten Glory and Shade of Datura in Japan, The 41st International Conference for the History of Pharmacy, 2013 年 9 月 12 日, Paris: Rue de l'ecole-de-Medecine

中村武司、「近世」の世界システムをどう考えるのか、全国歴史教育研究協議会第 54 回研究大会(招待講演) 2013 年 7 月 31 日~2013 年 8 月 1 日、横浜市・ワークピア横浜

桃木至朗、高大連携でつくる新しい歴史教育~普通の教員が教えられる東南アジア史に向けた取り組みから、全国歴史教育研究協議会第 54 回研究大会(招待講演) 2013 年 7 月 31 日~2013 年 8 月 1 日、横浜市・ワークピア横浜

IGAWA Kenji, From Wakou 倭寇 to orderly trade in China sea region, Eightieth International Convention of Asia Scholars, 2013 年 6 月 24 日, Macao: The Venetian Macao Resort Hotel

青柳正規、草生久嗣、栗原麻子、堀井優、地中海トークン 都のかたち、第 37 回地中海学会大会(招待講演) 2013 年 6 月 15 日、京都市・同志社大学

飯塚一幸、地域社会の変容と地方名望家、大阪歴史科学協議会 5 月例会(招待講演) 2013 年 5 月 12 日、大阪市・西区民センター

桃木至朗、日越関係が示す新しい世界史像、「大ベトナム展」特別講演会 1(招待講演) 2013 年 4 月 21 日、太宰府市・九州国立博物館

Igawa Kenji, 日明通交における通交制限と島嶼部交易, The First Asia Future Conference 2013, 2013 年 3 月 18 日, Centara Grand at Central Plaza Ladprao, Bangkok, Thailand

IGAWA Kenji, Islands Trade in the Chinese Empire: Contradiction of the Maritime Ban System, Maritime Perspective in Eurasian and Indian Ocean World History(招待講演), 2013 年 2 月 18 日, Indian Ocean World Centre, McGill University, Montreal, Canada

AKITA Shigeru, Creating Global History from Asian Perspectives From the 'Long

Eighteenth Century' to 'Economic Resurgence of East Asia', Workshop on Maritime Perspectives in Eurasian and Indian Ocean World History: Towards a Global History(招待講演), 2013 年 2 月 17 日, Indian Ocean World Centre, McGill University, Montreal, Canada

荒川正晴、敦煌文書に見る妻の離婚、娘の財産相続、中国前近代ジェンダー史研究会(招待講演) 2013 年 1 月 27 日、日本大学文学部(東京都)

②①市大樹、都の中の文字文化、国立歴史民俗博物館国際シンポジウム「古代日本と古代朝鮮の文字文化交流」(招待講演) 2012 年 12 月 15 日、イイノホール(東京都日比谷区)

②②UCHINO Hanna, The Herbs Called 'The Herbs for Joro' and the Culture of Women in the Edo Period, The 6th International Conference for the Asian Society for the History of Medicine, 2012 年 12 月 15 日, Keio University, Yokohama

②③MOMOKI Shiro, Cung Thanh Tu, che do thuong hoang va khu cung cam cua Thang Long thoi Tran, Hoi thao Quoc te Viet Nam hoc lan thu tu, 2012 年 11 月 26 日~2012 年 11 月 28 日, Hoi truong quoc te My Dinh, Ha Noi

②④荒川正晴、前近代中央アジアの国家と交易、内陸アジア史学会大会、2012 年 11 月 4 日、札幌市・北海道大学文学研究科

②⑤秋田茂、「長期の 18 世紀」から「東アジアの経済的再興」へ、社会思想史学会第 37 回大会・セッション K: グローバルヒストリーと思想史の位置(招待講演) 2012 年 10 月 28 日、東京都・一橋大学

②⑥秋田茂、グローバル経済史研究からのコメント、第 12 回日韓・韓日歴史家会議(招待講演) 2012 年 10 月 26 日~2012 年 10 月 28 日、東京都・ホテルアジア会館

②⑦桃木至朗、21 世紀の世界史教育と東南アジア史、京都府高等学校地理歴史科・公民科研究会創立 20 周年記念講演会(招待講演) 2012 年 10 月 19 日、京都市・キャンパスプラザ京都

②⑧UCHINO Hanna, Kyala Which Was the Symbol of Supremacy: The Perspective of Aloeswood in the Edo Era, The 43rd Congress of International Society for the History of Medicine, 2012 年 9 月 15 日, Conference Centre, Abano Terme, Padua, Italy

②⑨IIJIMA Wataru, A Hidden Commonality in "World History" between South Korea, China, and Japan, Korean Association for International Studies conference, 2012 年 8 月 20 日~2012 年 8 月 21 日, Seoul, Korea

③⑩桃木至朗、東北地方でわざわざ東南アジア

- 史を学ぶ意味を明示できる歴史学と歴史教育は可能か？、宮城県高等学校社会科（地歴科・公民科）教育研究会歴史部会例会（招待講演）2012年8月9日、仙台市・仙台第二高等学校
- ③①秋田茂、18世紀のアジア世界：南アジア産綿織物と世界史、神奈川県高等学校教科研究会社会科部会歴史分科会高大連携の試み「18世紀のアジアをどう教えるか」（招待講演）2012年8月8日、鎌倉市・栄光学園高校
- ③②桃木至朗、18世紀の東南アジア、神奈川県高等学校教科研究会社会科部会歴史分科会高大連携の試み「18世紀のアジアをどう教えるか」（招待講演）2012年8月7日、鎌倉市・栄光学園高校
- ③③中村武司、新しい世界史と時系列の問題、北海道高等学校世界史研究会・第43回研究大会（招待講演）2012年8月3日、札幌市・札幌大学
- ③④IJIMA Wataru, Who have responsibility to manage disease; historical experience of the twentieth century in East Asia and contemporary, The Fourth International Conference on Sinology, 2012年6月20日～2012年6月22日, Academia Sinica, Taipei, TAIWAN
- ③⑤桃木至朗、高大連携で大学の歴史教育を変える新しい挑戦、熊本県高等学校教育研究会地歴・公民部会2012年総会（招待講演）2012年5月15日、熊本市青年会館
- ③⑥AKITA Shigeru, Osaka University ④⑦ty and Creating Global History from Asian Perspectives, Special Lecture on Global History, Department of English, Gwanju University（招待講演）, 2012年4月30日, Gwanju University, Korea
- ③⑦IGAWA Kenji, The conditions of regional exchanges between Southeast and East Asia in the sixteenth and seventeenth centuries, 2nd Congress of Asian Association of World Historians (AAWH), 2012年4月29日, Seoul: Ewha Women University (Korea)
- ③⑧中村薫、どのような「歴史基礎」が望ましいか 高校教員のアンケート結果および今後に向けての問題点、京都高等学校社会科研究会2011年度部会総会（招待講演）2012年3月17日、京都市職員会館「かもがわ」
- ③⑨市大樹、律令公民制の成立過程と木簡、日本史研究会（招待講演）2012年1月8日、京都市・機関誌会館
- ④⑩市大樹、木簡からみた日本古代国家の形成過程、奈良歴史研究会（招待講演）, 2011年12月20日、奈良市・奈良女子大学
- ④⑪IGAWA Kenji, A Tentative Assumption on the Relation between Piracy and Trade Centering on Early Modern Japan, International Workshop “Globalizing Violence, Emerging Modernity: Piracy and Anti-Piracy Campaigns in Eurasia, c. 1600-1900”, 2011年12月11日、東京都・学習院女子大学
- ④⑫栗原麻子、前4世紀アテナイにおける市民の家と非市民女性、女性史総合研究会162回例会（招待講演）2011年12月10日、京都市・ウイングス京都
- ④⑬IGAWA Kenji, The Concrete Image of Smuggling Trade in 16th Century East Asia, International Workshop, Tribute, Trade, and Smuggling, 2011年11月26日, Universiteit Gent（ベルギー）
- ④⑭桃木至朗、高校で教える東南アジア史のスタンダード作り～学界（学会）でなにを議論すべきか～、東南アジア学会中部例会ミニシンポ「東南アジア史を如何に教えるか」、2011年10月29日、名古屋市・名古屋大学
- ④⑮市大樹、日本古代木簡の多機能性、“東亜簡牘與社会 - 東亜簡牘学探討”研究会、2011年8月29日、花園飯店（中国・北京）
- ④⑯堤一昭、現代日本圍繞“中国”構造的討論 - 従帝国到国民国家、現代中国与東亜新格局教学与研究中国・内蒙古大学學術會議中心坊（第五回）, 2011年8月21日、
- ④⑰AKITA Shigeru, The British Empire and the International Order of Asia in the 1930s and 1950s, The 20th Anniversary Congress of Korean Society of British History: British Empire: Memory and Legacy, 2011年7月28日, University of Cheongju, Korea
- ④⑱堤一昭、『世界史』教科書中の中国史30年間の変化を見る試み、大阪大学歴史教育研究会・第53回例会、2011年7月16日、豊中市・大阪大学文学研究科
- ④⑲中村薫、日本学術会議での歴史基礎案と歴史総合科目について、平成23年度京都府立高等学校地理歴史科・公民科研究会（招待講演）2011年7月7日、京都府立西乙訓高校
- ④⑳桃木至朗、歴史教育とジェンダー～アジアから全体史を学ぶ／教える、日本学術会議学術フォーラム「歴史認識を変える - 歴史教育改革とジェンダー」（招待講演）2011年7月2日、東京都・日本学術会議講堂
- (51)吉嶺茂樹、桃木至朗、日本列島北方史と東南アジア史を比較する歴史教育の試み、東南アジア史学会第85回研究大会パネル「北海道でどのように東南アジア史を教えるか／学ぶか」、2011年6月12日、札幌市・北海道大学
- (52)中村薫、日本学術会議の歴史基礎についての世界史分野からのコメント、日本学術会議公開シンポジウム「新しい高校地理・歴史教育の創造」（招待講演）2011年4月23日、東京都・日本学術会議講堂

〔図書〕(計10件)

秋田茂、荒川正晴、栗原麻子、坂尻彰宏、  
桃木至朗、大阪大学出版会、市民のための  
世界史、2014、315  
秋田茂、桃木至朗 共編、大阪大学出版会、  
グローバルヒストリーと帝国、2013、305  
秋田茂 編、ミネルヴァ書房、アジアから  
みたグローバルヒストリー、2013、343  
飯塚一幸 他、京丹後市、図説京丹後市の  
歴史、2013、99 103、105 115、117 123、  
125 134  
市大樹 他、吉川弘文館、国分寺の創建  
組織・技術編、2013、167 187  
市大樹 責任編集、朝日新聞社、週刊日本  
の歴史 飛鳥時代 2 飛鳥・藤原京の理想  
と現実、2013、37  
秋田茂、中央公論新社、イギリス帝国の歴  
史 アジアから考える、2012、288  
飯塚一幸 他、有志舎、講座明治維新第 5  
巻 立憲制と帝国への道、2012、49 85  
市大樹、中央公論新社、飛鳥の木簡 古代  
史の新たな解明、2012、303  
市大樹、吉川弘文館、すべての道は平城京  
へ 古代国家の<支配の道>、2011、247

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等  
大阪大学歴史教育研究会 HP：  
<http://www.geocities.jp/rekikyo/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

桃木 至朗 (MOMOKI SHIRO)  
大阪大学・文学研究科・教授  
研究者番号：40182183

(2) 研究分担者

秋田 茂 (AKITA SHIGERU)  
大阪大学・文学研究科・教授  
研究者番号：10175789

荒川 正晴 (ARAKAWA MASAHARU)  
大阪大学・文学研究科・教授  
研究者番号：10283699

飯島 渉 (IIJIMA WATARU)  
青山学院大学・文学部・教授  
研究者番号：70221744

飯塚 一幸 (IIZUKA KAZUYUKI)  
大阪大学・文学研究科・教授  
研究者番号：50259892

伊川 健二 (IGAWA KENJI)  
大阪大学・文学研究科・招へい研究員  
研究者番号：70567859

市 大樹 (ICHI HIROKI)  
大阪大学文学研究科・准教授  
研究者番号：00343004

内野 花 (UCHINO HANNA)  
大阪大学・コミュニケーションデザイン・  
センター・特任講師  
研究者番号：20586820

栗原 麻子 (KURIHARA ASAKO)  
大阪大学・文学研究科・准教授  
研究者番号：00289125

堤 一昭 (TSUTSUMI KAZUAKI)  
大阪大学・文学研究科・准教授(25年度は  
教授)  
研究者番号：70283835

中村 武司 (NAKAMURA TAKESHI)  
弘前大学・人文学部・講師  
研究者番号：70533470

(3) 連携研究者

杉本 淑彦 (SUGIMOTO YOSHIHIKO)  
京都大学・文学研究科・教授  
研究者番号：30179163

三成 美保 (MITSUNARI MIHO)  
奈良女子大学・生活環境学部・教授  
研究者番号：60202347

(4) 研究協力者

中村 薫 (NAKAMURA KAORU)  
大阪大学・文学研究科・非常勤講師(23年  
度~25年10月は研究分担者)  
研究者番号：80369719